

「授業備品」N066 H. 30. 6. 26 「算数指導案例」「タイムマネジメント」や「課題とまとめ」の整合性を意識
 正規の指導案も簡略化を図る。指導案完結型とせず、当日の展開に時間をかける。

①正式指導案

第3学年 算数科学習指導案（葉山小学校の協力）

平成30年7月3日（火）第6校時
 児童数 25名 場所 3年教室
 指導者

* 平成30年度4月実施標準学力調査結果より
 領域別正答率（全国平均と比較）

・「数と計算」〇〇.〇(全国平均-〇.〇)・量と測定〇〇.〇(全国平均+〇.〇)・図形〇〇.〇(全国平均-〇.〇)

1 単元名 「わり算を考えよう」

2 研究協議会で話し合っしてほしいこと

- (1) 本時の教科のねらいが達成できたか
 - ・問題場面に応じた商や余りの処理の仕方ができ、それを説明できたか。
- (2) 問題解決学習（流れ、言語わざ・学び合い、振り返り）
 - ・自分の考えを式や図、言葉を使ってノートに表すことができたか。

3 指導観

算数（数と計算）については個人差がある。特に九九については定着していない児童が数名おり、4月当初より加力指導を行ってきた。余りのあるわり算の場合、商の立て方に課題が考えられるので、商の立て方を確実に習得させてから本時に向かわせたい。ペア学びでは、自分の考えを相手に伝えること、伝えるだけで終わらず、良い所を見つれたり意見を交換したりして更に学びを深めることを重点に取り組んでいる。本時の指導にあたっては、あまりの処理の仕方を考える問題という発展的な思考を要する学習のため、問題の意味を十分に理解させたうえで問題解決に取り組ませたい。

4 単元（題材）の目標

わり切れない場合の除法について理解し、除法の意味について理解を深めるとともに、それをを用いることができるようにする。

5 指導計画（全10時間 本時 7 / 10）

- 1次（2時間） 除数と商が1位数の除法で、わり切れない場合の計算の仕方を理解する。
- 2次（1時間） 余りと除数の関係を理解する。
- 3次（1時間） 等分除についてもわり切れない場合の除法が適用できることを理解する。
- 4次（1時間） わり切れない場合の除法計算について、答えの確かめ方を理解する。
- 5次（1時間） わり切れない場合を含む、除法の計算練習をする。
- 6次（2時間） 余りのとらえ方について理解を深める。（本時1 / 2）
- 7次（1時間） 学習内容を適用して問題を解決する。
- 8次（1時間） 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。

6 本時の指導

(1) 板書計画

7/3 72p	問 課	ケーキが23こあります。1はこに4このケーキを入れます。全部のケーキを入れるには、はこは何はこあればいいでしょう。	友	こうさつ
言語わざ	算数キーワード	全部のケーキを入れるには、はこは何はこあればいいか、もとめ方を考え話し合おう。	考え方1	全部のケーキを入れるには、あまりの分を1はこに数える。
シラバス	求め方	全部 あまり	考え方2 考え方3	ま ふ て
	自			

(2) 本時の目標 あまりのとらえ方について理解を深める。

(3) 本時の評価規準
問題場面に応じた、商や余りの処理の仕方を理解している。(技能) <発表・ノート>

(4) 展開

学習過程	○学習活動・児童の反応	○教師の働きかけ ☆評価
【Ⅰ見通し】 (5分) ・前時の振り返り 問題提示 ・問いをもつ ・問いの共有 学習課題の設定 ・シラバスの提示 ・言語わざの提示	1 前時の振り返りをする。 2 課題を解く方法を一人で考える。 3 本時の問題を見て気付きを発表する ・気付いたこと ・調べてみたいこと 4 問題の解決方法おおよその答えを確認する。 5 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①全部のケーキを入れるには、はこは何はこあればいいか、もとめ方を考え話し合おう。 </div> 6 シラバス・言語わざの提示 7 グーパーチェック	1 振り返り、本時の問題(資料)をもとに、子どもたちが問いを持てるような問題提示を行う。 2 1分間見させる。 3 視点を出す。 4 解決方法や大よその答えの確認の指示をする。
【Ⅱ解決活動】 自力解決 (6分)	8 図、言葉、式を使って考える。	8 机間指導(赤ペン指導)
ペア・班解決 (3分)	9 ペアで自分の意見を伝え合う。	
集団解決 (23分) ・全体の学び合い① 事実・単純な意見集約 ・全体の学び合い②相互評価(考察) ・教師の修正	10 全体で学び合う。 $23 \div 4 = 5$ あまり3 11 話し合いを通して考えを深める。 答えは5はこ? →あまりの3はこはどうするか →あまりの3こもはこにいれなければならぬのもう1はこ要る	10 ☆問題場面に応じた、商や余りの処理の仕方を理解している。(技能) <発表・ノート> ・共通点や相違点、類似点を見つけさせる。 11 意見の整理や修正を行う。 ①付きの発表の指示 ② ③ ④ ⑤
【Ⅲまとめ】 (3分) 価値の共有	12 自分の言葉でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ②全部のケーキを入れるには、あまりの分を1はこに数える。 </div>	12 学習課題とまとめの整合性を図る。
【Ⅳ振り返り】 (5分)	13 ノートに振り返りを書く。 14 適応問題を解く。	視点 ①分かったこと ②友だちから学んだこと ③知りたいこと ④キーワード

※こども研究協議会を実施する。(5分)・よかったところ

・もっとこうしたらいい思うところ

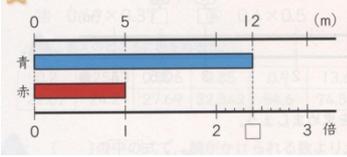
月日 (校時)	単元名	教材名
6月13日 (水) 5校時	整数と小数	小数のかけ算を考えよう

本時のねらい

○純小数倍で表す場合も含めて、小数倍の意味の理解を確実にする。

評価規準

知 倍を表す数が小数倍になる場合があり、そのとき比較量は基準量より小さくなることを理解している。(ノート・発言)

学習課程	学習活動 (○発問・予想される児童の反応)	留意事項・ 評価										
<p>【見通し】 13:30</p>	<p>○前の時間のまとめ・振り返りを隣の人と交流してください。 ・整数の時に習った計算の決まりは、小数でも成り立つ。</p>	<p>・ノートや学習掲示を見てペアで前時の振り返りをさせる。</p>										
<p>・問題提示 13:32</p> <p>・問いの共有</p> <p>課題の設定 13:35 ・シラバス</p> <p>・言語わざ ・キーワード 13:37</p> <p>【解決活動】 ・自力解決 ・集団解決 ・班学び</p> <p>・全体学習 13:50 ・考察 13:55</p> <p>【まとめ】 14:04</p>	<p>1 問題を読む。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>右の表のような長さのリボンがあります。赤のリボンの長さをもとにすると、ほかのリボンの長さは、それぞれ何倍ですか。</p> </div> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>長さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>赤</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>青</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>黄</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>○気づいたことや、これまでの学習との違いを発表しましょう。 ・赤のリボンを基準に考えればいい。 ・わり算が使えるそうだな。 ・数直線を見て考えると答えが小数になりそう。</p> <p>2 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>倍を表す数が小数になる場合について、数直線、式、言葉を使って説明しよう。</p> </div> <p>(一人学び (6分)・班学び (7分)・学び合い (10分)・まとめ (3分)・振り返り (3分)) 「数直線、式、言葉を使って説明する (整数、小数、商、基準量、倍)」</p>  <p>3 青と黄のリボンが赤のリボンの何倍になるかを考える。 ○赤のリボンを基準にすると、青と黄のリボンはそれぞれ何倍になるでしょう。気づいたことも書きましょう。</p> <p>4 学び合いで気づいたことを発表する。 ・倍の数を表すときは、小数や1より小さい小数で表すことがある。 ・基準になる長さによって表し方が違う。 ・基準になる長さを1と見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>倍を表すときは、1より小さい小数になるときもある。 0.8倍は5mを1と見たときに、4mが0.8になることを表す。</p> </div>		長さ (m)	白	10	赤	5	青	12	黄	4	<p>・既習から解き方の見通しを持たせ、本時の課題を設定できるように促す。</p> <p>・数直線、式などを使い様々な方法で考えるよう促す。 ・立式でとまどう児童には、白のリボンの長さの赤のリボンの長さの何倍であるか (整数倍) を考えさせる。</p> <p>・基準値や0.8倍の意味を数直線を使って確かめさせる。</p>
	長さ (m)											
白	10											
赤	5											
青	12											
黄	4											
<p>【振り返り】 14:07</p> <p>適用問題 14:12</p> <p>14:15</p>	<p>5 学習したことを振り返る。</p> <p>6 適用問題に取り組む。(P.43 △1)</p>	<p>知 倍を表す数が小数倍になる場合があり、そのとき比較量は基準量より小さくなることを理解している。(ノート・発言)</p>										

- (1) 単元名 文字を使って式を表そう
- (2) 本時の目標 x 、 y を用いて表された式から、具体的な場面をつくり、言葉や図で表すことができる。
- (3) 本時の評価規準 x 、 y を用いて表された式から、具体的な場面をつくることことができる。(技能)
- (4) 展開

学習過程	○学習活動・児童の反応	○教師の働きかけ ☆評価
【I 見通し】 (5分) ・前時の振り返り 問題提示 ・問いをもつ ・問いの共有 学習課題の設定 ・シラバスの提示 ・言語わざの提示	1 前時の振り返りをする。 2 課題を解く方法を一人で考える。 3 本時の問題を見て気づきを発表する ・気付いたこと ・調べてみたいこと 4 問題の解決方法おおよその答えを確認する。 5 本時の学習課題を確認する。	1 振り返り、本時の問題(資料)をもとに、子どもたちが問いを持てるような問題提示を行う。 2 1分間見させる。 3 視点を出す。 4 解決方法や大よその答えの確認の指示をする。
	(課) 今までの学習を振り返りながら、4つの式に表される場面を考え、交流しよう。	
	6 シラバス・言語わざの提示 7 グーパーチェック	
【II 解決活動】 自力解決 (6分)	8 図、言葉、式を使って考える。	8 机間指導(赤ペン指導)
ペア・班解決 (3分)	9 ペアで自分の意見を伝え合う。	
集団解決 (23分) ・全体の学び合い① 事実・単純な意見集約 ・全体の学び合い② 相互評価(考察) ・教師の修正	10 全体で学び合う。 ・20円のあめと x 円のジュースを買います。代金は y 円です。 $(20 + x = y)$ ・面積が 20cm^2 の長方形があります。縦の長さが $x\text{cm}$ のとき、横の長さは $y\text{cm}$ です。 $(20 \div x = y)$ ・折り紙が20枚あります。 x 枚使うと、残りは y 枚です。 $(20 - x = y)$ ・20円のガムを x 個買うと、代金は y 円です。 $(20 \times x = y)$ 11 話し合いを通して考えを深める。 →気づいたことはない? ・式に表される場面は言葉や図で表せる	10 どんな式になるか考えさせる。 ☆ x 、 y を用いて表された式から、具体的な場面をつくることことができる (技) <発表・ノート>
【III まとめ】 (3分) 価値の共有	12 自分の言葉でまとめる。	12 学習課題とまとめの整合性を図る。
	(Ⓢ) 今までに学習したいろいろなことを使って考えると、式に表される場面を、ことばや図で表すことができる。	
【IV 振り返り】 (5分)	13 ノートに振り返りを書く。 14 適応問題を解く。	視点 ①分かったこと ②友だちから学んだこと ③知りたいこと ④キーワード